様式 4

<p style="text-align: center;">令和 6 年度 第 1 回 富士見市いじめ問題対策連絡協議会 議事録</p>						
日時	令和 7 年 3 月 1 8 日 (火)		開会	午後 3 時 1 0 分		
			閉会	午後 4 時 2 0 分		
場所	富士見市役所全員協議会室					
出席者	委員	池田委員	本木委員	堀川委員	寺島委員	田中委員
		欠	○	○	欠	欠
		林委員	服部委員	高橋委員	野本委員	松田委員
		○	欠	○	○	○
		柳原委員	植木委員	武田委員	鈴木委員	小日向委員
		○	○	○	欠	○
	オブザーバー	富士見市教育相談室 スクールソーシャルワーカー 齊藤 一美 講師				
事務局	子育て支援課長、子育て支援課副課長、子育て支援課主査、 教育相談室長					
公開・非公開	公開 (傍聴者なし)					
議題	<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 意見交換</p> <p>4 事務連絡</p> <p>5 閉 会</p>					

議 事 内 容

1 開 会 子育て支援課長

2 会長あいさつ

3 意見交換

【会 長】講演会の感想や斎藤講師にお聞きになりたいことなど、お一人ずつご意見等をいただきたいと思います。

【委 員】いじめの対応については、やはり組織で対応しなくてはいけないなというところを再確認させていただきました。また、いじめは未然に防止することが大切であり、富士見市教育委員会では、市内小中学校の代表2名が各中学校区に集まって子どもたちが主体で議論する「いじめのない学校づくり子ども会議」の開催や生徒指導訪問をしていて、よい取組であると感じています。

【委 員】改めてSNS等のいじめについて再考する機会になりました。過去のことが要因で、5年後10年後にいじめの重大事態となることが多いのですが、調査方法や解決方法など伺えればと思います。

【委 員】証拠が残っていれば良いのですが、時間がたっていると証拠が残っていない事案が多いです。被害者の求めがあれば、当事者や関係者の聞き取りを行います。

【委 員】事件を起こす子どもがいけないのは当然ですが、その親がいけない事が多いです。そのため親の教育が必要であると考えます。

【委 員】中学生で荒れてしまった子がいましたが、挨拶や食事の片付けなど、当たり前のことができていなかったです。これも親が教育できていないからです。いじめを認定されたら、いじめをした人を法律で罰するくらいしないと、いじめは減らないと思います。親の教育としては、幼児虐待を行った親は、より罪を重くすることで親の教育に繋がるのではないかと思います。

【委 員】子どもの支援だけでなく、親の支援が必要な方も多くいますが、関係機関と日々協議し、支援を行っています。親の教育が必要であると感じる方は、当たり前のことを当たり前だと思っていないことが多く、支援方法等で苦労しています。

講演会の中で、いじめの解消の定義で、被害児童生徒が心身の苦痛を感じていない事となっていました。どのような形で確認されるのですか。

【講 師】重大事態など心理的な負担が大きい事案ですと、臨床心理士の方など専門的な方の意見を聞いて組織で判断をしています。

【委 員】子どもが嫌だといえば、いじめとして認知するため、重大事態等でなければ、臨床心理士などの専門的な方に意見は聞いていないものもあります。

30日休むと重大事態と認定するため、件数が多かった少なかったという判断はすべきでないと考えており、どうして起きたのか、なぜこれがいじめとしたのかといういじめの背景を把握し、慎重に対応する必要があります。

いじめだけに着目して、対応しても解決しないと考えており、みんなが満足して、みんなが何か目標に向かって希望を持ってチャレンジできる世の中になれば、そんな自分の現状について、悲観しすぎないで済むため、子どもに対して親や学校がいろんな希望を持てるようにすること、それが

ら、行政が支援していくことで、自立を目指そうと考えることなど色々なものが合わさり、社会を良くしていかなければならないと思っています。

【委員】厳しくすれば良いと思いますが、法律では少年の健全育成、更生が目的となっています。相談があれば積極的に事件化を考えているため、早い段階で相談をしてほしいです。学校での指導後に納得できない方からの相談がありましたが、SNSや画像などの証拠を消す指導があり、調査は難航します。

早期発見、早期解決が非常に重要であると思います。

【委員】非行を未然に防ぐということを目的で、市内の喫煙所、ゲームセンターや、カラオケボックス等の巡回をしています。年々街から子どもたちの姿が消えているのが実情です。外に出なくてもSNSで家の中で人と繋がっているためであると考えられます。家の中では、その家庭での指導が重要であり、やはり親育てが必要であると思います。共働きで学校に行く機会も減ってしまったりして、親自体が他の方との繋がりが希薄になっているのも原因であると思います。地域活動で子どもたちだけに目を向けるのではなく、親たちも一緒に育てられると考えられるので、地域活動に参加することが有効であると思います。

【委員】これもいじめかな、あれもいじめかなって思うことが多くありますが、保護者と一緒にお話をして毎日向き合っていますが、最近はその子と関わらないような対応をしてほしいと保護者からお話があることも多くなっています。

以前、小学生の子の写真を撮ったり、危険な遊びをしている中学生がいたので、学校に連絡したところ、警察も話しに入ってくれたことがあり、関係機関で連携し、見守っていく大切さを感じました。

【委員】いじめは、子ども対子どもだけでなく、子ども対先生もあり、先生がいじめられた事案では、先生が異動してしまいました。子どもは先生が暴力をしないことがわかっていて、子どもはやりたい放題になっている現状があるため、先生を守るものがあると思います。

【委員】法律上は小中学校にも出席停止に近いものがあります。そのような状態に至る前に子どものサインを見逃し、子どもを追い込んでいた可能性もあると思っています。発達に関わる問題があって、子どもを一律にしつけるべきというのが当てはまらない時代であり、子どもの実態をよく見て、この子は実はこういう特性を持っていて、これは理解できるけど、ここの部分の感覚が欠如しているというようなものもあるので、それも踏まえた上で、実態に応じた指導を適切にやってきたかどうかというのを見ていきたいなと思います。

【事務局】いじめなどの相談があった場合には、まず共感ということが入り口になり、信頼関係が築けると、さらに色々話してくれることが多いです。

口で言うのは簡単ですが、孤立させないことが大切であり、関係機関で連携し、それぞれ至らないところを補完しながら対応していけたらよいと思っています。

【会長】それでは最後に斎藤講師より総括をお願いします。

【講師】1点目ですが、委員さんが親の教育の話がされた時、自分だったらどうするかなと色々考えましたが、学校で抱えきれなくなったような事案が教育相談室に来ますが、保護者の方の考え方を教えてくれるといいなと思う事案でも保護者にその旨を伝えると来なくなってしまうので、子どもを変容させて保護者を変容させていく方法でないとうまくいかないと考えています。

2点目ですが、いじめには加害者、被害者、観衆、傍観者の4層構造になっています。加害者、被害者にならないように教育することは、もちろん大事なことです。観衆、傍観者にどのような教育が必要なのかということも考えていきたいと思いました。

本日はそれぞれの立場でご意見等いただき、勉強になりました。ありがとうございました。

4 事務連絡

次回の協議会の日程：未定

5 閉 会